

2050年にむけての住まいづくり



車いすでも出入りできるテラスの施工例

多くの人は、歳をとっても自分の家の住み続けたいと思っている歳を、それは身体能力が衰えていくのは避けられないことだ。それを想起した仕掛けや備えをしておくことで、長い間マイホームに住み続けることができる。

人はそこには、歳をとっても身元に大きな影響を及ぼす。住む人を元気にする家や、家族を仲良くさせたりする家もある。逆に、病気を引き起こしたり、非行を助長するような家もある。「超高齢社会」では、住まいの持つ力をうまく利用し、歳をとっても住み続けることのできるよう、車いすでも出入りできるバリアフリー

置く。それが難しい場合は後からエレベーター

包容力のある住まい

対応力のある住まい

支持力のある住まい

住み続ける

2050年といえども、38年後28歳の人が65歳の高齢者になる。今、住宅を新築するの

理由

理由